鹿児島市中山町の虚無僧踊

【所　在　地】鹿児島市中山町（中山下虚無僧踊保存会）
【種　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】昭和 38 年６月 17 日

この踊りは元来，白山神社の秋祭り（豊祭）（９月 29 日）に奉納されるものである。踊りの中心は中山地区の二才組（青年たち）で，踊り手は虚無僧と棒つかいに分かれている。虚無僧は扇子を持ち右腰に尺八，左腰に小太刀を差し，麦ワラ製の深編笠をかぶる。棒つかいはカスリの単衣に白鉢巻，白タスキ，ワラジばきで，樫の六尺棒を持っている。踊り方は，はじめ六尺棒の列が白装束の虚無僧を中にはさんで三列縦隊で出場，歌が始まると六尺棒で力いっぱい地を突いて行き，虚無僧は日の丸扇子を開き，頭上に振りつつ前進，皆で「アラソイソイ」とはやし，「サアサアサア」で停止する。虚無僧は六尺棒の間をくぐりながらそれを払い上げ，また叩き伏せる。踊りは「庭入り」ののち，１番から５番まで踊り，「引き庭」で終るが，気合のこもった迫力のある踊りである。

棒踊りの一種であるが，棒，小太刀，扇子と三種の持物を自由にあつかって，隊形や踊りにリズミカルな変化をもたせ，勇壮活発に踊るところなど，この種の踊りの中でも，特に洗練された芸能である。